

神山神社だより

平成 25 年 9 月
10 号

■ 夏祭り例大祭が終わって思うこと

今年の夏は例年になく猛暑で大変な日々を送られたかと存じます。やっとこの頃、過ごしやすい日となりましたが、各地方では大雨・竜巻による災害等で今もなお、注意しなければならぬ日が続いております。そんな中、例年通り、七月第四日曜日に神山神社の例大祭が執り行われましたこと、まことに感謝する次第です。特に、祭り当番地区の川西地区・元中組地区・元野尻地区の皆様におかれましては、準備から本番までの長期に渡り、大変ご苦勞様でした。無事、祭りが



例大祭神事風景

齋行でき、多くの方に参詣して頂けましたこと、あわせて感謝申し上げます。この福岡地域では例祭として他に、高之巢地区、八幡神社の例祭・八布施地区、八布施神社の例祭・新田地区、菅原神社の例祭が神山神社の例大祭の週の前後に執り行われます。それぞれの地区の方が趣向を凝らしてお祭りを齋行し私も神社の神職として神事を執り行っております。いつも思うのですがこの暑い七月から八月にかけて例祭が行われるのには何か大きな理由があるのではないのかと。神山神社の例祭が七月に行われるのは、一つには神社の創建日である事、又は、京都の祇園祭り（七月に行われます）と同じで主祭神が須佐之男命であることが考えられますが、やはり一番は田植えが終わり一段落した時期に行われていることではないでしょうか。他の地域であれば春の例大祭、秋の例大祭が多い中、夏に行われるのは、この地域が他の地域と比べ、災害が少なく、毎年、実り豊かな収穫が得られることに起因しているように感じられます。これも、神頼み（祈年祭）として

たこと、あわせて感謝申し上げます。この福岡地域では例祭として他に、高之巢地区、八幡神社の例祭・八布施地区、八布施神社の例祭・新田地区、菅原神社の例祭が神山神社の例大祭の週の前後に執り行われます。それぞれの地区の方が趣向を凝らしてお祭りを齋行し私も神社の神職として神事を執り行っております。いつも思うのですがこの暑い七月から八月にかけて例祭が行われるのには何か大きな理由があるのではないのかと。神山神社の例祭が七月に行われるのは、一つには神社の創建日である事、又は、京都の祇園祭り（七月に行われます）と同じで主祭神が須佐之男命であることが考えられますが、やはり一番は田植えが終わり一段落した時期に行われていることではないでしょうか。他の地域であれば春の例大祭、秋の例大祭が多い中、夏に行われるのは、この地域が他の地域と比べ、災害が少なく、毎年、実り豊かな収穫が得られることに起因しているように感じられます。これも、神頼み（祈年祭）として

春に、または神への感謝祭として秋に行われていたと思います。今年の八月は、雨の降らない日が連続で多く続きました。また、この東農地区以外を見れば水害、竜巻で被害を受けられたところが多くあります。この福岡でこんな年が毎年続くようであれば春祭り、または秋祭り等で盛大に祭りが行われていたことでしょう。九月に入り台風も来ましたがこの福岡では大きな災害もなく無事、過ごせる事に感謝したいと思います。



お白石持奉曳風景

■ お白石持行事

日本の神社の総社である伊勢神宮では二十年に一度行われる御遷宮が十月二日（内宮）十月五日（外宮）で執り行われます。それに先立ち、ご本殿のある御正宮の庭に伊勢に流れる宮川の石を運び敷き詰め

る行事としてお白石持行事があります。八月八日・九日、中津川市からも百六十名の方が参加され御正宮に白石を奉納してまいりました。このような機会であれば、ご本殿を拝謁することができません。一生に一度、二度、出来るかどうかの行事です。

伊勢の町は伊勢の住民はもとより全国からの参拝者で歩くのが困難なほど多くの方で賑わい、祭り一色でした。

新しい御正宮前では、本来であればまだ、御祭神が遷られていないにもかかわらず、多くの方が、手を合わせお参りしている姿に、日本人の見えないものの存在に畏敬の念を表している姿が美しいものであるなあと感じられました。一般の方はどう、御正宮を見る機会はなくなりました。伊勢神宮へ足を運んで、その雰囲気を感じてみてください。

■ 新春伊勢神宮参拝旅行

来年の神社が主催する神宮参拝旅行は一月十七日・十八日の日に決定いたしました。福岡・田瀬・下野・高山合同で行われます。式年遷宮翌年である為、多くの人が参加されると予想されますので、今からでも地区の氏子総代さんに参加希望を申しつけください。

宿泊先は伊勢ロイヤルホテルです。

帰りの寄道先はお千代保稲荷神社参拝を予定しています。

■ パワースポット「和合木」

榊山神社の境内中段にある『杉の木』と『こならの木(どんぐり)』を和合木と名付け、縁結び・夫婦円満・のご利益があるパワースポットとしてご紹介しています。



両木とも樹齢百年以上と思われませんが、根の部分を含め、地上一、五メートル程が絡み合っている状態です。通常であれば、どちらかが朽ちてしまふのが、同じような廻り方で成長し、見上げるほどの木となっています。今ままで、特に気にしていませんでしたが、非常に珍しいと言ふことで今年、「和合木」と看板を立て、特別参拝者の方に見ていただけるよう案内をしております。今後、榊山神社のパワースポットとして広く紹介して、ご利益があるよう祈念い

たします。

■ 幽光御神灯祭り

八月十五日(終戦記念日)の日に「幽光御神灯祭り」を行いました。

どのようなお祭りかと云うと、榊山神社の大鳥居から本殿までの参道と境内にろうそくを敷き詰め、午後七時から十一時までの四時間、灯を燈し、音楽を流し、榊山神社の御祭神を慰める行事です。

当日は氏子総代さんの協力の元、三百五十本以上のろうそくを並べ、全燈籠に火入れを行い、参拝者を迎え入れました。ろうそくの火が入ると草幻的な神社となり見る者がしばし見とれるほどで、また、シックな音楽を流したことにより、非日常的な世界観が感じられ、感動に満ちておりました。

これから毎年、榊山神社の新しい祭りとして行っていくつもりです、ぜひとも、氏子の皆様方のご協力をお願いいたします。



■ これからのお祭り

十一月十日(日)

七五三祭り

十一月二十三日(土)

秋祭り(甘酒祭り)

十二月三十日(月)

大祓式

七五三祭り申し込みについて

受付午前9時30分～10時30分

お祝い料 三千五百円

※ 十月中旬に新聞の折り込みチラシにて申し込み用紙を配布します。または直接、ご連絡ください。

宮司(深谷耕平) 0573-72-2892

■ 巫女アルバイト募集

対象者 高校生以上の未婚の女性二名

期間 一月一日～一月三日

時間 AM9:00～PM4:00

アルバイト料 六千円/日当

連絡先 宮司(深谷耕平)宅

電話番号 0573-72-2892



■ 榊山神社の神社林下刈りと植樹

五月十九日に神社裏の神社林の下刈りと神の植樹を氏子総代の方々と執り行いました。

植樹に使用しました神は野尻の吉村金孝さんより六十本の苗木を奉納していただきました。ありがとうございました。

■ その他

神社の成り立ちについてご存知でしょうか。

西暦七百年頃まで神社と云う建物がなく、その御神体は山であり、岩であり、木でありました。仏教が八百年頃、この国に伝来し、仏教寺院が建てられるようになると、それに対して、神社が建てられるようになったわけです。それまでは神道と云う語さえもなかったのです。お寺が隆盛を誇っているところでも神社が衰退しなかったのは、神社そのものが地域社会共同体として形成されたものであったからです。そのため、武家社会では、人々を取りまとめる手段として、神社を保護し、奉納を欠かせることはなかったようです。

この榊山神社は苗木藩の一番主要な神社であり、この福岡が苗木藩の中心であったと言われています。ぜひ、歴史を紐解いてみてください。